

千住の旧家

— 千住の文化を支えた人々 —



▲ 横山家住宅（足立区千住 4-28-1）



▲ 千住名倉医院（足立区千住 5-22-1）

千住四丁目の横山家は、地漉紙問屋として有名です。梅田や本木など近隣の農家から地漉紙を仕入れ、日本橋の方へ売りさばっていました。

地漉紙とは、「浅草紙」と呼ばれる再生紙のことで、主に加工原料、落し紙（トイレットペーパー）として用いられました。大千住の面影をのこす横山家住宅は、区の登録文化財に登録されています。

千住五丁目の名倉家は、「骨接ぎ」の代名詞として全国にその名を知られています。名倉家は寛文～元禄の頃（17世紀後半）に千住へと移り住み、四代目の名倉直賢のとき、楊心流柔術などを極め、明和7(1770)年頃に接骨業をはじめました。以来、名倉家子孫は「業祖」名倉直賢の意志と伝統を受け継ぎ、代々、整形外科医院として活躍してきました。

こうした旧家によって、千住の文化は今日まで支えられてきました。